

# 第11回 縄文楽検定 初級 解答集

平成31年3月作成

テキストから90%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）

テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）

火焰土器の国：新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』（新潟日報事業社、平成21年4月刊行）。

日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 ガイドブック』

（信濃川火焰街道連携協議会、平成30年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）

聖火台アピール宣言：「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」アピール宣言について

※テキストⅠの（）内は、『火焰土器の国新潟』内のページ番号です。

No.	解	問題の出典と解説
1	d	テキストⅠ-p5(136) aは十日町市野首遺跡出土の深鉢形土器、bは長岡市馬高遺跡から出土した火焰型土器、cは同じく王冠型土器です。bとdの一番の違いは鶏冠状突起で、bは尾部が左上り、dは右上がりです。
2	c	テキストⅠ-p10・11(141・142)、火焰土器の国-p28など aは十日町市野首遺跡の深鉢形土器、bは長岡市山下遺跡の深鉢形土器、dは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器です。
3	b	テキストⅠ-p25～26(156～157)
4	b	火焰土器の国-p59
5	d	テキストⅠ-p15(146)
6	c	テキストⅠ-p19(150)、火焰土器の国-p32、88
7	c	火焰土器の国-p88 分析の結果、煮炊きした食材のおこげと考えられています。
8	d	テキストⅠ-p16(147) 火焰型土器の色調には赤色系と白色系があります。土器の胎土に鉄分が多く含まれるものは赤く、少ないものは白く焼き上がります。
9	a	テキストⅠ-p10(141)、火焰土器の国新潟-p28など 鶏のトサカに似ていることから鶏冠状突起あるいは鶏頭冠と呼んでいます。
10	c	テキストⅡ-p2 この土器は、胴部が縄文で施文されている点が特徴です。一般的な火焰型土器・王冠型土器は縄文で施文されません。
11	a	テキスト外 bは隆起線文や隆帯文、cは刺突文、dは押型文と呼ばれます。bは火焰型土器・王冠型土器のほか、縄文時代草創期の土器などにも見られます。cは縄文時代後期の三十稲場式土器に特徴的で、dは縄文時代早期の押型文土器にみられる施文技法です。
12	b	テキストⅠ-p17(148) 今のところ縄文土器には回転ロクロが使用されていないと考えられています。縄文土器の底には、木の葉や笹の葉、編み物の痕跡が残されていることがあり、これらを敷いて、手で回しながら土器を作っていたと考えられています。
13	a	火焰土器の国-p71～76 火焰型土器をはじめとする縄文土器は板作りを行いません。aの説明としては、粘土紐を積み上げて容器を成形する、あるいは輪積み器のかたちをつくる、などが正解です。
14	a	テキストⅡ-p5、p19～22 大蔵遺跡は五泉市に所在する、縄文時代中期の集落跡です。続く問15がヒントとなっています。

15	<b>c</b> テキストⅡ-p5・6 五泉市大蔵遺跡から出土した台付浅鉢は、優勝カップに似たその形から「栄光杯」と呼ばれています。阿賀野川にかかる馬下橋の欄干を飾るなど、多くの市民に親しまれています。
16	<b>a</b> テキストⅡ-p9、12、18、24 新潟県の数ある縄文遺跡でも、難読なものを集めてみました。aは「いもがわ」と読むのが正解です。
17	<b>c</b> テキストⅡ-p20 笹山遺跡出土品のうち928点が平成11年(1999)に国宝に指定されています。現在、新潟県内唯一の国宝です。b馬高遺跡出土品は300点が重要文化財、d堂平遺跡は火焰型土器と王冠型土器の2点が重要文化財に指定されています。
18	<b>d</b> 日本遺産ガイドブックなど 信濃川火焰街道連携協議会に加入している市町は現在、新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町の5市1町です。
19	<b>b</b> 日本遺産ガイドブック-p20 典型的な火焰型土器の分布は、ほぼ新潟県内に限られます(テキスト p12・13参照)。新潟県が「火焰土器のクニ」と呼ばれるゆえんです。
20	<b>b</b> 火焰土器の国-p42～46 北京原人は約70万年前の化石人骨です。
21	<b>c</b> 火焰土器の国-p8
22	<b>b</b> 火焰土器の国-p116～118 縄文時代には米食はなかったと考えられています。胎内市分谷内遺跡から出土した漆器の中に入っていた土を分析した結果、ニフトコ・ヤマグワ・サルナシなどの種実が検出され、果実酒が入っていたとも推測されています。石川県真脇遺跡では解体痕の残るイルカの骨が大量に出土しており、イルカ漁が行われていたと考えられています。縄文時代のクッキー状炭化物は山形県押出遺跡出土のものが有名ですが、新潟県内でも津南町沖ノ原遺跡や長岡市岩野原遺跡などで発見例があります。
23	<b>d</b> 火焰土器の国-p100 石皿と磨石はセットで使用されたと考えられ、石皿は中央部がくぼんでいます。磨製石器は木の伐採や加工に、打製石斧は土を掘る道具、石棒は信仰の道具、石槍は狩猟具、石錐は毛皮などに穴をあける道具と考えられています。三脚石器の用途は不明です。
24	<b>c</b> テキスト外 石鏃は適当な大きさに剥いだ剥片を、押圧剥離によって加工して製作されます。
25	<b>c</b> テキストⅠ-p6・23・24(137・154・155)、テキストⅡ-p7、 aは三条市吉野屋遺跡出土の土偶。bは長岡市馬高遺跡出土の大形土偶「ミス馬高」。cは三角形とう土製品と呼ばれる三角柱状の土製品で、用途不明です(写真のものは長岡市馬高遺跡出土)。dは三角形土製品と呼ばれるもので、省略形土偶の一種と考えられています。
26	<b>a</b> 火焰土器の国-p19～20 小林達雄先生の命名です。
27	<b>c</b> テキストⅠ-p4(135) 現在発見されている遺跡をみると、集落の立地には見晴らしの良い台地が好まれたことがわかります。国史跡の長岡市馬高遺跡・津南町沖ノ原遺跡などがその典型例です。反対に、高い山の山頂(a)や大きな川沿いの低地(b)、海辺(d)では火焰土器文化の集落は発見されていません。
28	<b>a</b> 日本遺産ストーリー、日本遺産ガイドブック-p2 暖流の対馬海流の流入によって日本海の水水面が上昇し、ここに大陸からの季節風が吹きこむことによって、この地域が豪雪地帯でになったと考えられています。
29	<b>c</b> テキストⅠ-p4(135) 広場を中心に、竪穴住居の棟軸が放射状になるのが原則です。

30	c	テキストⅡ-p9・13・15・25 いずれもテキストⅡからの写真です。aは津南町堂平遺跡、bは長岡市馬高遺跡、dは長岡市徳昌寺遺跡の住居跡です。cは三条市五百川遺跡の北のムラの「モノ送りの場」です。
31	d	火焰土器の国-p104 堅穴住居は地面を掘りくぼめて床をつくる、半地下式の建物です。紛らわしいのはcの「すりばち状にして」ですが、床がすりばち状では落ちて生活できませんよね。
32	b	テキストⅡ-p8 フラスコ状土坑は入口が狭く底が広がる堅穴状の遺構で、断面が実験道具のフラスコに似ていることから、その名が付いています。別名、袋状土坑とも呼ばれます。その特殊な形状から、木の実などを貯蔵したと考えられています。
33	b	テキスト外 沖ノ原遺跡出土のクッキー状炭化物は、分析の結果、デンプン質主体という結果が出ています。なお、小麦粉の原料となるコムギが日本に伝わったのは弥生時代と考えられています。
34	a	テキストⅡ-p3、日本遺産ガイドブック-p6
35	a	テキストⅡ-p27 不思議なことに、魚野川流域では土偶の出土が少なく、地域の特徴となっています。
36	d	日本遺産ガイドブック-p6 的場遺跡は奈良・平安時代の鮭漁にかかわる遺跡で、「杉人鮭」と墨書された木簡などが出土しています。
37	d	テキストⅠ-p22(153)、テキストⅡ-p8、火焰土器の国-p106・107など aとbは狩猟、cは漁に関する遺構・遺物です。dは木の実などを貯蔵したと考えられています。
38	d	テキストⅠ-p13(144)、火焰土器の国-p117・127など 火焰型土器は約5,000年前、信濃川流域を中心に作られていました。
39	b	日本遺産ガイドブック-p14 王神祭は新潟県指定文化財。古来より鮭が重要な資源だったことを物語る行事です。
40	d	日本遺産ガイドブック巻末(構成文化財一覧) 長岡まつり大花火大会は信濃川を彩る夏の風物詩ですが、構成文化財ではありません。
41	d	日本遺産ガイドブック-p9 aは津南町の河岸段丘上にある湧水池(ガイドブックp30)、bは十日町市の滝つぼ(ガイドブックp26)、cは同じく十日町市に所在する、清津川の溪谷(ガイドブックp26)です。
42	a	テキスト外 長岡市岩野原遺跡出土の火焰型土器・王冠型土器、栃倉遺跡出土の深鉢形土器、中道遺跡出土の深鉢形土器の計4点が、平成28年(2016)10月から、イギリスの大英博物館に長期貸出されています。津南町道尻手遺跡出土の火焰型土器と合わせ、同館の日本ギャラリーで常設展示中ですので、機会がありましたら是非ご覧ください。ちなみに、アメリカのクリーブランド“美術館”には火焰型土器が所蔵されています。
43	d	テキストⅡ-p8 八十里越は、三条市から魚沼市を經由して会津(只見町)に至る道です。cは長岡市・柏崎市、あるいは十日町市・南魚沼市にかけての峠です。
44	a	聖火台アピール宣言
45	a	聖火台アピール宣言
46	b	ガイドブック-p2 昭和26年(1951)、東京国立博物館を訪れた岡本太郎は縄文土器に衝撃を受け、「なんだ、コレは！」と叫んだとも言われています。信濃川火焰街道連携協議会の日本遺産認定ストーリー『「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』のタイトルは、このエピソードにちなんでいます。

47	<p><b>c</b> ガイドブックなど  bは信濃川火焰街道連携協議会のロゴマーク。aとdは完全な創作です。日本遺産のロゴマークは、ロッセ・キシリトールガムや明治・おいしい牛乳などのパッケージデザインを手がけた、佐藤卓さんのデザインです。</p>
48	<p><b>b</b> 日本遺産ガイドブック-p5  福島潟は日本一のオオヒシクイの越冬地です。オオヒシクイは、ロシアのカムチャツカから飛来し、その数は5,000羽以上にもなります。</p>
49	<p><b>b</b> テキスト外  長岡市馬高縄文館は、国史跡馬高・三十稲場遺跡のガイダンス施設として平成21年(2009)9月に開館。今年で開館10周年を迎えます。</p>
50	<p><b>b</b> 日本遺産ガイドブック-p35  火焰型土器をモチーフにした炬火台が昭和39年(1964)開催の新潟国体の際に設置されています。</p>